児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

2023年度　　事業所名　：　TAKUMI 与野教室

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令を順守したスペースは勿論のこと、運動のできるスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	配置加算を採用しているので、常時指導員は常に3名体制となっている。 他教室からヘルプの指導員も含めて適切に配置されている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	建築基準法に基づき、バリアフリー化の配慮を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	毎日掃除を行い清潔にしている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	個別支援計画に基づき、日々の療育の前に指導員全員でミーティングを行い、終了後にも振り返りを行い、次回の療育に繋げる対策を行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	保護者向けアンケートを実施し、評価の悪い項目については、今後計画的に改善を図っていく。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	HPで公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じて検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	療育に関係のある外部研修には各自積極的に参加し、内容を共有する機会を設けている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	児発管と指導員が、子どもの様子と保護者の要望を確認しながら、個別支援計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	適応行動の状況は 日々のミーティングで確認している。標準化されたアセスメントシートを使用し、必要に応じ確認している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	児発管と保護者の話し合いを行い、適切に選択し具体的な支援内容を設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	毎サービス提供時間前後に計画や目標を確認し支援を行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	子どもの課題や成長の様子なども考慮し立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	運動は子どもの様子や保護者のニーズを取り入れながら、日ごとにプログラムを変えている。	

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

2023年度　　事業所名　：　TAKUMI 与野教室

供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	子どもの適性を見極め各々のクラス人数設定を行っている。子どもの成長度合いに応じ、クラス変更を行っている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	支援開始前後に必ずミーティングを行い、支援方法や役割分担を行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、1日の振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点を洗い出し、次の支援につなげている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	個別に記録を残し、日々の変化や取り組みに対する対応を共有している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	定期的に保護者、児発管、指導員とミーティングを行い、モニタリングをして計画の見直しの必要性を判断している。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		現在はサービス担当者会議が行われていないため参加していないが、サービス担当者会議がある時は、児発管と現場のリーダーが参加する予定。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	学校との情報共有は行っていないが、保護者から間接的に学校情報をもらうことがある。	
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		現在該当する利用児は無いが、今後必要に応じて連携できる体制を整えていく。
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		現在該当する利用児は無いが、今後必要に応じて連携できる体制を整えていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	他療育や幼稚園、保育園との情報共有は出来る限り行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	保護者の申し出があれば、学校等に資料を送る体制ができている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	近隣で公開しているセミナーなどに参加し、情報収集を行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		現在検討していないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		今まで参加したことはないが、協議会の内容や職員の勤務体制などにより、参加を検討していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	毎回の支援終了後に保護者とのフィードバックの時間を設け、希望に応じ学校 や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	ペアレントトレーニングは特に実施していないが、日々のフィードバックの中で、子ども対応について親へのアドバイスを行っている。	

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

2023年度　　事業所名　：　TAKUMI 与野教室

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明しており、支援の内容は様々な状況で説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	児発管が支援計画を作成・説明を行い同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	指導員や児発管が悩みを話せるように声掛けし、助言や支援を行っている。一人の判断で回答できないときは、スタッフ間でミーティングを行い回答するように心がけている。また、電話で経過を伺うなどして相談に応じている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		現在検討していないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	苦情・要望については、受けた時点で都度対応し早急に改善している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	会報等は発行しておらず、直接のやり取りもしくは電話やLINEを利用し連絡をとりあっている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	個人情報と思われる資料は、シュレッダーを掛けたり、カギ付き書庫の中に保管したりしている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		現在配慮の必要な方はおらず行われていないが、必要に応じて意思疎通の取り方を検討し行っていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在特にしていないため、今後必要に応じ検討していく予定。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	左記マニュアルに沿って職員に周知し、訓練にも取り組んでいる。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	定期的な訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	契約面談時に面談により確認している、変更があった場合は、随時情報提供していただいている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	契約面談時のフェイスシートと面談により確認している。変更があった場合は 随時情報提供していただいている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	その都度記録し、全職員で共有するとともに、今後の対応策を話し合い実践し ている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	管理者兼児発管が社内の虐待防止委員会作成の研修にも基づき、行っている。	

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

2023年度　　事業所名　：　TAKUMI 与野教室

	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	組織的に決定しており、子どもや保護者へは契約時に必ず説明し、了承を得ている。今現在、当事業所において拘束等は行われていない。	

〇この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

2023年度

事業所名 ： TAKUMI 与野教室

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	7	0	0	1		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	8	0	0	0	先生が沢山いて、細やかに子供のフォローをして頂いている。	法令通りの人員を配置しております。専門性については契約書類の重説に経歴・資格が記載してありますが、より伝わりやすいように努めていきます。質問・わからない事がありましたらスタッフにお尋ねください。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	8	0	0	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	8	0	0	0		
適切な支援の提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	8	0	0	0		
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7	0	0	1		
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	7	0	0	1		
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	6	1	0	1		
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	0	0	4	4		
保護者への説明等	10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	8	0	0	0		
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	8	0	0	0		
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	2	1	1	4		
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	7	0	0	1		
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	7	0	0	1	まだ入所したばかりなのでわからないです。	6か月に1回の面談を実施しております。また、それ以外でも通所時に毎回活動後のフィートバックを行っております。面談や活動後のフィードバック以外でも随時LINEや電話でご相談を受け付けておりますので都度お声がけ頂ければと思います。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	0	3	4		

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

2023年度

事業所名 ： TAKUMI 与野教室

	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	8	0	0	0		
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	7	0	0	1		
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	0	0	1	7		
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	8	0	0	0		
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	8	0	0	0		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	6	1	0	1		
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	8	0	0	0	子どもが楽しめる内容になっていて満足しています。	今後も児童様が楽しく通所しながら成長できるように日々ミーティングで療育内容を熟考していきます。児童様に行き渋りがみられる場合は真摯に受け止めて療育内容を改善させていただきますので遠慮なくご相談ください。
	23	事業所の支援に満足しているか	8	0	0	0		

〇この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

2023年度　　事業所名　TAKUMI 与野教室

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令を順守したスペースは勿論のこと、運動のできるスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	配置加算を採用しているので、常時指導員は常に3名体制となっている。 他教室からヘルプの指導員も含めて適切に配置されている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	建築基準法に基づき、バリアフリー化の配慮を行っている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	ヒヤリハット、事故対策、会議議事録、感染対策、虐待防止対策、研修実施議 事録、相談苦情、非常災害対策等々の担当者を割り振り、定期的なミーティン グを行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	保護者向けアンケートを実施し、評価の悪い項目については、今後計画的に改善を図っていく。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	HPで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じて検討していく。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	療育に関係のある外部研修には各自積極的に参加し、内容を共有する機会を設けている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	児発管と指導員が、子どもの様子と保護者の要望を確認しながら、個別支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	適応行動の状況は 日々のミーティングで確認している。標準化されたアセスメントシートを使用し、必要に応じ確認している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	児発管と指導員が話し合い、プログラムの立案を行っている。また、子どもの直近の様子なども考慮し立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	基本的なプログラムの内容、流れは一緒であるが、同じ内容でもルールを変更したり、アレンジしたりしている。 また、定期的に職員で話し合い、子どもの様子や状況により内容を変更するなどしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	当事業所は、、平日と休日ともに開所しており、サービス提供は平日と休日、特段変わりがないため、基本同じ内容で実施している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	当事業所は、長期休暇時もサービス提供は平日と特段変わりがないため、基本同じ内容で実施している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	支援開始前に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、課題を書き出しミーティングの中で、支援方法や役割分担を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、1日の振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点洗い出している。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

2023年度　　事業所名　TAKUMI 与野教室

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	個別に記録を残し、日々の変化や取り組みに対する対応を共有している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	契約後、6か月以内に定期的に保護者、児発管、指導員とミーティングを行い、計画の見直しの必要性を判断している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	総則通り行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	児発管とマネージャーで参画している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	当事業所は送迎がないこともあり、学校との情報共有は行っていない。その代わり、保護者から間接的に情報をもらっている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		当事業所には、医療スタッフが存在しないことと、医療的ケアの必要なお子様が通所していないが、今後受け入れる場合は、主治医との連絡体制は整えていく予定。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	現在は就学前の各園との情報共有等は行っていないが、放課後等デイサービスや保険対象外の療育施設との情報共有や相互理解は要望があれば対応している。今後、必要に応じ検討していきたい。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	資料を提供できる体制は整っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	近隣で公開しているセミナーなどに参加しており情報収集を行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		今後は必要性に応じて検討していく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	近隣で公開している協議会などに参加しており情報収集を行っている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	毎回の支援終了後に、保護者とのフィードバックの時間を設け、学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	ペアレントトレーニングは特に実施していないが、日々のフィードバックの中で、子ども対応について親へのアドバイスを行っている。また面談時に相談を受け た場合も、指導員が回答するなどして支援を行なっている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明しており、支援の内容は様々な状況で説明している。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

2023年度　　事業所名　TAKUMI 与野教室

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	毎回、指導員や児発管が悩みを聞き出すように声掛けし、助言や支援を行っている。一人の判断で回答できなときは、スタッフ間でミーティングし、回答するように心がけている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		現在検討していないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	苦情・要望については、受けた時点で都度対応し早急に改善している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	会報等は発行していない。直接のやり取りもしくは電話やLINEアプリを利用し連絡をとりあっている。	
	35	個人情報に十分注意している	個人情報と思われる資料は、シュレッダーを掛けたり、カギ付き書庫の中に保管したりしている。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		現在配慮の必要な方はおらず行われていないが、必要に応じて意思疎通の取り方を検討し行っていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在特にしていないため、今後必要に応じ検討していきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	左記マニュアルに沿って職員に周知し、訓練にも取り組んでいる。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	定期的な訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	社内研修を実施し虐待防止の概念や事例など取り上げながら、日々の療育に反映できるようにしている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	マニュアルも作成し、方法も組織的に決定しており、子どもや保護者へは契約時に必ず説明し、同意書のもと了承を得ている。 今現在、当事業所において拘束等は行われていない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	契約面談時のフェースシートと面談により、食物アレルギーについて聴取し、一覧表を鍵のかかるロッカーの中に張り出している。今後必要に応じ医師の指示書の必要性を検討していく。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	その都度記録し、全職員で共有するとともに、今後の対応策を話し合い実践し ている。	

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公表）

2023年度

事業所名 ： TAKUMI 与野教室

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	31	2	0	1	少人数制なのでよいと思います。	法令を遵守したスペースを確保しております。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	33	1	0	0	少人数制なのでよいと思います。	法令通りの人員を配置しております。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	18	9	0	7	出入口には段差などはないです。 バリアフリーかと言われるとそこまでの設備はないかもしれない。	建築基準に基づき、バリアフリー化の配慮を行っていますが、クラスの入れ替え等でご不便がないよう極力配慮させていただきます。
適切な支援の提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ｉが作成されているか	29	3	0	2	児発達管理責任者と保護者が話す機会が少し少ないように感じます。	お子様についてのご相談等ありましたら、今後も引き続きスタッフにお声掛けいただければと思います。
	5	活動プログラム※ⅱが固定化しないよう工夫されているか	28	2	0	4	その日の人数にもよると思いますが、かたよりはあるかもしれません。	引き続き児童様が楽しみながら成長できるプログラムを考えていきます。ご要望・ご意見も遠慮なくおっしゃってください。
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	0	3	14	17	運動療育メインで行っていただいているので、その点は求めていません。	当面はそのような機会は検討しておりませんが、必要に応じて対応して参ります。
保護者への説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	31	1	0	2		
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	30	4	0	0	自宅や学校での課題を共有できる時間がもう少しあるとよいかもしれません。	フィードバックでの質問・要望はより良い療育の向上・意思疎通に繋がりますのでどんな事でもお尋ねください。入れ替えが多い時等、なかなか時間をとることができない場合がありますので、その際はご相談のうえ面談・電話対応等の時間を設けさせていただきます。
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	26	6	2	0	支援計画でもう少し具体的に助言していただけると助かります。 面談の回数がもう少し設けられると嬉しいです。	支援計画の面談以外にも、保護者からのご希望に応じて、面談の機会を設けています。
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	2	14	16	子どもたちの輪から親も他の保護者との関わり合いがありほどよいです。	保護者会などの実施予定はありませんが、必要に応じて対応して参ります。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	21	2	0	11	苦情をしたことがないのでわかりません。	ご意見・苦情があった場合は即日スタッフ全員でミーティングを行い、改善策を協議してその結果をお伝えします。
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	29	3	0	2		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	17	2	1	14		
	14	個人情報に十分注意しているか	32	1	0	1		
非常時等	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	29	1	0	4		

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公表）

2023年度

事業所名 ： TAKUMI 与野教室

等の対応	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	33	0	0	1		
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	32	2	0	0	安心できる場所であることでどんな時でもTAKUMIに行きたいと言っています。	今後も児童様が楽しく通所しながら成長できるように日々ミーティングで療育内容を熟考していきます。児童様に行き渋りがみられる場合は真摯に受け止めて療育内容を改善させていただきますので遠慮なくご相談ください。
	18	事業所の支援に満足しているか	34	0	0	0	苦手なことも嫌だと感じられないように工夫さてた内容で満足しています。その日の活動内容や子どもの状況など丁寧に説明してています。 子どもをうまくのせて対応していただいています。	お子様の気持ちを尊重して、好きな運動からいろいろな運動にチャレンジする気持ちを育み、成長に合わせた支援を今後も実施致します。

※ⅰ 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ⅱ 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。